

# 旧村川別荘だより

84

平成26年3月20日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

3月の月例会が開催されました。あっという間に3月ですね。

先日まで行われていた「ひなのまつり」も、みなさまのご協力のもと、無事に終わりました（報告は後半に記載）。気候も幾分暖くなり、段々と外に出かけるのにも、心地よい季節となりました。



## 幻の東京五輪

先日、第23回冬季大会であるソチオリンピックが終了しました。それに伴い、今回は、オリンピックにまつわるお話です。

### ●「幻の東京五輪」決定号外

昨年、12月にガイド青木さんより、12月7日付夕刊14面において『「幻の東京五輪」決定号外』という記事があることをご紹介いただきました。ここでは、日本人初の国際オリンピック委員を務めた、嘉納治五郎の1940年東京五輪決定に当たっての発言内容などが紹介されています。

### ●嘉納治五郎の発言について

新聞で紹介されていたのは、ごくわずかでしたが、当時の号外を調べてみると、記載されていた嘉納治五郎の発言の全容が分かります。



読み解くと以下のとおりとなります。

「開票までの形勢は接戦と見られていた。今日午餐會でお茶の時に、日本に關係利害のない國の人までが皆私に冬季競技の棄権を勧めた。そこでこの會に訣席した副島伯と相談の結果冬期競技を強く主張せぬことを述べた譯だ、これが果して各國の同情を惹いたらしく開票の結果は意外の大勝となった、私が生んだ日本

のオリムピック・ムーヴメントは遂に實を結ぶことが出来た、思へばロサンゼルスで故岸博士と東京開催を申込んだ當時は到底來るとは思へなかつた。これといふのも故岸博士以來日本體協及び各方面の人達が日本のスポーツをこゝまで盛んにしてくれたお蔭で深く感謝する。東京で開くとした以上あくまで世界に模範を示さねばならない（網掛けの部分か新聞掲載記述です。）従來のオリムピックは欧米だけで開催されオリムピックの眞の意義を發揮出来なかつたが次回の第十二回大會は東京で行ふ事になりこれによつて眞に世界的なものとなると同時に日本の眞の姿を外國に知らせることを得るので二重に愉快である」と、このように、発言内容が記載されており、嘉納の五輪に対する期待や思いが読み取れます。

### ●嘉納の最期

昭和11（1936）年には、東京五輪の招致に成功しましたが、戦争悪化に伴い、東京五輪は幻となりました。昭和13（1938）年、カイロでのIOC総会の帰り、横浜へ向かう氷川丸船内で、嘉納はその生涯を閉じました。



### ●最後に…

国際オリンピック委員として活躍した嘉納治五郎が、かつて我孫子に別荘を構え、村川堅固達と交流を持っていたことを考えると、オリンピックもまた新しい角度で見ることができるとは思いませんか。

2020年の東京五輪まではまだまだ時間がありますが、開催された暁には、嘉納治五郎のことを含めて、また新しい発見があるかもしれませんね。

ご紹介くださった青木さん、ありがとうございました。

## 連絡・意見交換など

### ●来訪者用アンケートについて

・1月月例会で、ご提案をいただいた来訪者用

アンケートについて、4月より新しいアンケートを新館に置くので、記入欄等に関して、何かありましたら、またご意見ありましたら、ガイド日誌にお書き入れください。

- ポット、お茶などの設置について
- ガイドの皆さんに、ポット（ティファール）、お茶、紅茶、コーヒーなどのご用意をさせていただきました。母屋台所に置くこととしますので、適宜ご利用していただければと思います。
- 新館の灯籠修理について
  - 新館にある灯籠を、この度修理することになりました。期間未定ではありますが、近日中に修理に出す予定です。（3月11日より修理中です。）
- 冬時間について
  - 2月16日までで、冬時間を終了とさせていただき、ひなのまつり開催からは、通常通りの午前9:00～12:30、午後12:30～16:00までの当番時間に改めて戻すこととします。当初、2月中旬までとお話していたところでしたが、きちんとご周知するのが遅くなってしまい、申し訳ありません。よろしくお願い致します。
- 旧村川別荘への地図について
  - 「ひなのまつり」にご来荘していただくお客様複数より、旧村川別荘への行き方がわからないと言われました。ポスターやチラシ等、概略図での紹介が多いので、詳細地図があればと思いました。
- 雛壇について
  - 展示してある七段飾りの雛壇の年代をよく聞かれたのですが、詳細がわかればありがたいです。→寄附をいただいた方のご年齢から察して、昭和30～40年代のものということしかわかりません。
- 庭園だより紹介
  - 別添資料に沿って、説明いたしました。

## 「ひなのまつり」

2月18日（火）～3月9日（日）まで、「ひなのまつり」が開催されました。

今年は、昔懐かしい遊びを体験できる手遊びコーナーを設けました。その結果、子どもはもちろんのこと、大人の方にもたくさん足を止めていただきました。とても評判がよかったです。その結果、今年は、お客様全体を通して、つるし雛にも感動される方が多い以上に、子どもも多く来たのではないかと振り返ります。とても良い3週間となりました。（来荘者合計1526名）

プレイベントの準備から「ひなのまつり」本番まで、鷺見さんの多大なご協力があり、イベント成功を収めることができました。ご協力くださった、鷺見さん、ガイドのみなさまはじめ、関わってくださったみなさま、本当にありがとうございました。



## 2月の来荘者数

平成26年2月の来荘者数は、1006人でした！

平成25年2月 882人

平成24年2月 0人（工事期間中のため）

平成23年2月 950人

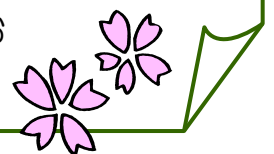
「ひなのまつり」の効果もありまして、2月は合計1000人を超える来荘者数を数えました！（^\_^）

ようやく、季節は暖かくなり、お散歩にも最適な時期となります。より多くの方のご来荘をお待ちしたいと思います♪

## 次回の月例会は・・・

次回の月例会は4月1日（火）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

季節は巡り、まもなく本格的な春がやってきます。今年の桜の開花は、いつ頃になるでしょうか。花粉症なども流行っている時期ではありますが、季節の変わり目、ご体調にはくれぐれもお気をつけてください。（\*\_^\*）



## 「ひな手縫い教室」

2月22日（土）午前9時より、大雪のため延期になった「ひな手縫い教室」（2回目）が実施されました！この日の参加者は6人。新館のスペースをゆったり使って、思い思いの手作り雛を作ることができました。＼(^o^)/





平成26年4月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより

85

## 月例会が開催されました

4月月例会が開催されました。今年度もどうぞよろしくお願ひします。

さて、待ちに待った春がやってきました。気づけば季節は春本番を迎えています。桜前線も、順調に北へと進んでいますね。写真は本庁舎の桜です。



やはり、桜を見ると日本人であることを実感させられますね。(\*^\_^\*)

## 千葉県北西部地区文化財発表会

今月は2月1日(土)に開催されました千葉県北西部地区文化財発表会の内容です。8回目となる今回は“文化の絆～モノとヒトとの出会い～”というテーマのもと、各市による発表が行われました。

我孫子市は「ガラパゴス古墳」と題し、根戸船戸古墳群の紹介を行いました。今回は、その一部を抜粋してお届けします。我孫子の古墳について、新しい視点で勉強する貴重な機会となりました。

### ●古墳と前方後円墳

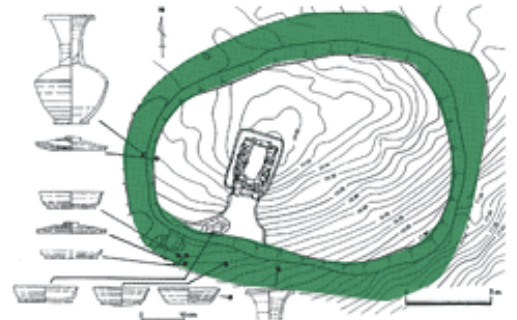
古墳とは、およそ3世紀半ばから8世紀初頭(古墳時代)に権力者の墓として作られた塚のことです。塚(墳丘)の部分を平面的に見て「円墳」「方墳」「前方後円墳」「前方後方墳」などに分類されます。

全国で数十万基作られたとされる古墳のほとんどは円墳で、前方後円墳は500基ほどであり、希少性があります。古墳時代後期の6世紀以降になると畿内では作られなくなりますが、関東地方では7世紀中頃においても前方後円墳が作り続けられ、現在印旛郡栄町の浅間山古墳が日本最後の前方後円墳とされています。

### ●根戸船戸古墳群の「変な形の古墳」

根戸船戸古墳群は、現在の我孫子市白山3丁目付近の手賀沼を見下ろす丘の上にあった古墳群です。昭和

40年代までは田園風景の中に6基の古墳があり、現在も、私有地と公園内に1基ずつ残っています。



根戸船戸3号墳(あびこ電腦考古博物館HPより)

これらの古墳について、昭和53(1978)年に5基の発掘調査を行いました。墳丘が残っていた2・



横穴式石室(上から見たところ)

3・6号墳は、前方部と後円部の明瞭なくびれ部がなく、変な形をしています。類例は知られておらず、手賀沼沿岸の一地域に限られています。

### ●「変な形の古墳」の系譜

なぜ、このような変な形の古墳になったのでしょうか?これは、前方後円墳から特異に進化したものと考えられます。古墳時代前半、埋葬施設は後円部の頂上にあり、前方部で埋葬儀式を行っていた人々は前方部に登って後円部を見ていたと思われる。つまり、「前方部からいかに後円部が見えるか」が古墳づくりのキモだったので。一方で、古墳時代後半以降は横穴式石室が本格的に採用され、埋葬の儀式は横穴式石室の墓前でされるようになり、人々は古墳を横から眺めることとなります。このようなことから、「前方後円墳にこだわらずとも、横からの見場が大事である」と考えた結果、横から見ると立派な古墳になりますが、上から見ると前方後円墳とは似ていない「変な形の古墳」になってしまったのではないかと…これが、特定地域内において、特異に進化したすなわち

ガラパゴス化した「変な形の古墳」＝「ガラパゴス古墳」ができあがるという図式です。

●「ガラパゴス古墳」の示すこと

「ガラパゴス古墳」の作り手が最も重視することは、共同体の外からどう見えるかではなく、所属する共同体のなかで「いいね！」と共通認識が得られるかどうかです。「いいね！」と言われれば、エスカレートして「変な形」になる…若者の流行とも似ています。



伝統的な前方後円墳の形にこだわらないと「いいね！」と言ってもらえなかった地域では、7世紀中頃になっても、一部では前方後円墳を作っていたのです。ガラパゴス化と伝統重視、どちらを選択するかは、土地柄や人々の気質の違いであり、そしてそれは政治状況の違いでもあります。隣り合う相馬（我孫子周辺）と印旛では異なっているのがその例です。

「ガラパゴス古墳」の存在を考えると、古墳時代の人々が古墳のどこを正面として眺めていたのか、「古墳をめぐる景観」をもう一度考えてみてもよいのかもしれない。

**連絡・意見交換など**

●旧村川別荘だより

ツバキやタチツボスミシなど、多くの花が咲いていました。最近では、ウグイスも見ることができました。

●我孫子市民フェスタ2013第5回分科会連絡会議報告

- ・我孫子市民フェスタの報告書があるので、ぜひ参照してください。
- 旧村川別荘用として1冊置いてあります。
- ・我孫子市市民活動サポート委員会が、あびこ市民活動ステーションの指定管理者導入に伴い解散することとなりました。
- 今後はNPO 法人 ACOBA が運営し、「市民活動メッセ」という事業を行います。平成26年8月20～21日に市民団体の交流を目的としたイベントを予定していますが、我孫子市民フェスタの代替ではありません。参加費も5000円ほどかかる見込みです。
- 今後の推移を見守ることにします。

・結論として、我孫子市民フェスタは今年度実施しないこととなりました。今までのみなさんご参加、ありがとうございました。

●日誌から読み取れる来荘者統計について

- ・平成25年度の統計について、現在染野さんにご協力をいただき集計中です。
- 5月月例会にはガイドのみなさんにフィードバックできると思います。

●村川のシルバーさんについて

- ・4月からシルバーさんが代わるとのこと、メンバーを知りたいです。
- 2月いっぱい鈴木さんがお辞めになり、3月いっぱい中村さんもお辞めになることに、藤野さんは別の場所へ異動となりました。
- 鴨志田さんが今後数か月延長して在籍していただくことになり、3月より山口さん、4月より上野さん、小池さん、以上3名の方が、新しく村川に勤務することとなりました。

**新年度のご挨拶**

4月より、新年度となり少し体制が代わりました。鈴木主幹が異動となり、須藤主査長が課内異動に伴い、歴史文化財担当となりました。西沢課長、辻、工藤、田中は変わらずです。今年度も、改めてよろしくお願ひ致します。(\*\_^\*)

**3月の来荘者数**

平成26年3月の来荘者数は、797人でした！  
 平成25年3月 1,112人  
 平成24年3月 0人（工事期間中のため）  
 平成23年3月 1,208人

3月は、ひなのまつりも行われた結果、多くのお客様にご来荘いただきました。4月以降もたくさんの来荘者の方に来ていただきたいです。＼(^o^)/

**次回の月例会は・・・**

次回の月例会は5月1日（木）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

桜前線は、赤ちゃんのハイハイほどの速度で北上するそうです。まだゴールはしていないようですが、次回の月例会では、桜前線のゴールのたよりを聞きながら、新緑の季節の到来を感じることができる月例会となれば嬉しいです。





# 旧村川別荘だより



平成 26年5月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

5月の月例会が開催されました。今月もどうぞよろしくお願ひします。この前、桜が満開を迎えたと思っていたところですが、気づけば5月に入り、段々と蒸し暑くなる季節が近づいていますね。

村川の母屋玄関前には、オオカマキリの卵があるとのことでしたが、まだ羽化していませんでした。静かに見守ってみたいと思います。



## 白樺文学館常設展示解説

今月は、常設展示をリニューアルした白樺文学館の解説を行いました。現在の常設展示テーマは「白樺派と我孫子」です。

### ●1階中展示室（旧第1展示室）

中展示室では、我孫子に関わりのある白樺派5人（志賀直哉、柳宗悦、武者小路実篤、柳兼子、バーナード・リーチ）の我孫子時代までの年表パネル、白樺文学館の象徴ともいえるロダン作「鼻のつぶれた男」が展示してあります。



また、日本民藝館よりご寄贈いただいた柳兼子愛用のピアノを展示しています。

### ●1階図書室

白樺派、民藝運動に関する書籍をご覧いただけます。ゆったりとした空間で、読書することができます。



### ●2階大展示室（旧第3展示室）

ここでは、「『白樺』の紹介した美術」をはじめ、志賀直哉、武者小路実篤、柳宗悦を中心に展示をしています。今回の展示のコンセプトは、『白樺』同人たちの関係を原稿や作品から感じてもらうことです。ぜひ、その芸術をご鑑賞いただきたいと思います。



### ●2階小展示室（旧第4展示室）

現在の常設テーマ「白樺派と我孫子」においては、焼き物などの民藝運動に関わる人々の作品は、小展示室で展示します。今回は、我孫子にゆかりのあるバーナード・リーチの作品を展示しています。



### ●地階音楽室（旧第5展示室）

声楽家である、柳兼子の歌声を鑑賞していただけるスペースとなっています。大正時代の我孫子の風景を思い浮かべながら、ゆったりと歌声をお聴きいただけます。



「分かりやすく、親しみやすく、我孫子に根差した文学館」を目標に、さらなる展示をしていきます。

4月26日（土）からは、「三館共通券」という、杉村楚人冠記念館、白樺文学館、鳥の博物館の3館をお得に回ることができる新しいチケットも発売となりました。この機会にぜひ、今一度我孫子散策をしていただければ嬉しいです。

## 民藝夏期学校のお知らせ

日本民藝協会が主催する、平成26年度日本民藝夏期学校が、今年の夏、8月9～10日に我孫子市で開催されます。この学校は、毎年民藝に深い繋がりのある土地で行われる大会です。今年の大会は、佐賀県唐津市、そして我孫子市で行われます。**9日は市民公開講座が予定されています。是非ご参加ください。**

今年は、柳夫妻が我孫子に訪訪して100周年となる節目の年です。白樺文学館の夏の企画展も、行事に準じてよりよいものにしていききたいと思います。

## 連絡・意見交換など

### ●庭園だより紹介

春の花である、ジュウニヒトエ、キランソウ、ハナニラ、タチツボスミレが盛んに咲いています。また、今の時期はタケノコも顔を出しており、その成長ぶりを見る事ができます。タケノコは1日に、120cmも伸びることがあるそうで、その説明にみなさん、感心しておりました。

### ●来荘者内訳について

染野さんに多大なご協力をいただき、昨年度の日誌に基づいて、村川別荘への来荘者数を算出してみました。(資料にて説明)

以下は、この資料から読み取れることをいくつかポイントとして挙げてみたいと思います。

- ・年間総人数 5,708 人に対して、個人での来荘が4,610人と、8割を占めている。
- ・総人数のうち4割弱の方はイベントで訪れている。
- ・市外の多くが柏市から訪れている。
- ・団体は10人以上を対象として算出しているが、年間を通じて、様々な団体が来荘している。

これらの分析結果を基に、さらなる来荘者の把握に努めていきたいと思えます。染野さん、本当にありがとうございました。(\*\_\*)

## 古墳の数について

4月月例会において染野さんから「日本の古墳は何基あるか」という質問が出ました。そのことについて、日比野さんが他の地域の古墳も含めて、調べてくださったとのことで、報告していただきました。以下にその結果を掲載します！！

- ・日本の古墳総数：161,560基
- ・千葉県古墳数：8,665基
- ・千葉県の前方後円墳数：685基
- ・茨城県の前方後円墳数：444基
- ・群馬県の前方後円墳数：410基
- ・岡山県の前方後円墳数：291基
- ・鳥取県の前方後円墳数：280基
- ・奈良県の前方後円墳数：239基
- ・大阪府の前方後円墳数：182基



このように見ると、千葉県における古墳数は、他府県を圧倒しています。しかし、全国的に改めて現地踏査を行い、その結果未知の古墳も発見されているなど、その数は年々増えると思われれます。

今年はキトラ古墳壁画が、初めての東京出展となりました(5月18日迄。於東京国立博物館)。

今一度、古墳に注目が集まる年になりそうです。

## 景観散歩

吉澤さんより、第19回景観散歩のご案内がありました。今回は、木更津の街並みを歩きます。

○実施日：5月29日(木)

○集合：我孫子駅北口

○時間：午前8時15分出発、午後5時頃解散

○参加費：2500円 定員：40名

申し込み締め切りが5月10日まででした。事後連絡になってしまい申し訳ありません。参加される方は、楽しんでいただければと思います。

## 4月の来荘者数

平成26年4月の来荘者数は、**365人**でした！

平成25年4月 418人、

平成24年4月 227人

平成23年4月 164人

春になり、続々と来荘者が訪れています。(\*\_\*)重ねて団体の来荘も増えています。改めて、団体様の予約等、入りましたら教育委員会まで一報をお願い致します。

## 次回の月例会は・・・

次回の月例会は6月1日(日)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

日が長くなり、歩くにも心地良い季節となっております。気温差もあります。くれぐれも体調には気を付けて下さい。





# 旧村川別荘だより



87

平成26年6月11日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
 歴史文化財担当：須藤、工藤、田中  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子1684番地  
 TEL:04-7185-1583(直通)  
 E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

6月の月例会が開催されました。今月もどうぞよろしくお願ひします。

さて、いよいよ本格的な雨の季節がやってきました。童謡「あめふり」の中にある「じゃのめでおむかえうれしいな」という有名な歌詞がありますが、ここで言う「じゃのめ」とは、「蛇の目傘」のことを指します。辞典によれば、紙地の周囲を黒または赤で塗り、蛇の目の形を表した傘だそうで、古くは元禄時代から使用されているとのこと。歴史を感じさせるフレーズです。傘にも深い歴史がありますね。



## 杉村楚人冠記念館テーマ展の解説

今月は、5月24日から7月13日まで開催されているテーマ展「楚人冠邸のくらし」を杉村楚人冠記念館の学芸員より、解説をいたしました。

### ●揮毫する

#### ・展示品について

今回、水滴を展示しています。これは、杉村楚人冠が書いた随筆「墨を磨る」（『楚人冠全集』第12巻 新選文所収）に登場するものです。硯は、三島海雲が楚人冠に、昭和14年に贈ったものです。三島は、カルピスの創業者で、西本願寺文学寮在学時に、教師兼舎監であった楚人冠の教えを受け、終生師弟の交友を持ちました。



(楚人冠書幅)



(楚人冠愛用の水滴)

#### ・落款印の銘

「楚人沐猴而冠耳（そひとはもっこうにしてかむりするのみ）」は、筆名「楚人冠」のもととなっ

た言葉です。出典は『史記』で、咸陽に入った項羽が、ここに都を定めず、楚に帰ろうとした愚かさをののしった言葉で、この故事から自分を皮肉って、楚人冠と名乗っていたそうです。

また、その他にも「桃李不言（とうりものいわず）」「家在白馬城址（いえははくばじょうしにあり）」という格言を気に入り、落款印としていました。



(楚人冠の落款印)

「桃李不言」は、桃やスモモの木は何も言わないが、その下には花や実を求めて人があつまり、自然に道ができるということから、徳望のある人物のもとへは、自然と人が集まるということを使った格言です。「家在白馬城址」は、自分の土地に付けた「白馬城」という名を入れたものです。その語源は、古代中国の思想家公孫竜の「白馬非馬（はくばはうまにあらず）」という言葉で、これが詭弁の典型とされることから、言葉をもてあそびひねくれものと楚人冠は共感し、自分を表現する落款に使用しました。

### ●通信する

信書管とは、原稿や手紙を筒状に丸めて差し込み、伝書鳩の脚にくくりつける道具です。楚人冠は、自宅から東京朝日新聞社へ原稿を送るために、伝書鳩を使っていました。



(伝書バト用信書管)

カードボックスは、楚人冠が、知人一人につき一枚、そこに住所、勤務先、出会った場所や会合、贈答など、知人の履歴を詳細に記録したカードを収納したものです。

IT技術のない時代に、手帳では収まりきれない情報を記録、整理、保存するために考えられた方法です。今では携帯電話で一括管理できる情報も、少し前にはきめ細かい整理がなされていたのですね。



(書斎机上のカードボックス)

●運動する

今回、展示品としてゴルフクラブを公開しています。このゴルフクラブは、シャフトの素材がヒッコリーという木でできていることから、時代的に楚人冠が使っていたものと推測されます。楚人冠は、50歳を過ぎてからゴルフをはじめ、大の愛好家となりました。

そして、このことが、のちに我孫子ゴルフ倶楽部開設を当時の我孫子町長<sup>そめやまさひろ</sup>染谷正治に提言することにつながりました。その頃、東葛地域には、六実、藤ヶ谷、柏、我孫子にゴルフ場がありましたが、戦争による閉鎖後、復活したのは我孫子ゴルフ倶楽部のみです。



(楚人冠時代のゴルフクラブ)

我孫子に残ったという事実は貴重なことと言えます。

日常の道具から見える楚人冠の暮らしぶり、いかがでしたか。そこには、昔ながらの生活が息づいていることがうかがえます。展示は7月までです。ぜひ、展示を見に足をお運びいただければと思います。( ^\_^ ) /

連絡・意見交換など

●旧村川別荘庭園だより

- ・5月に入り、キンラン、チャノキなどを見かけました。また、中旬になると、フタリシズカやノイバラも見つかりました。
- ・森や林は、大気汚染物質の吸着、気象の緩和、保水、生き物の生活など、様々な場面の機能があります。また植物が発するフィトンチッドは人体に癒しとされています。村川も小規模ながら環境が整っています。森林浴をされるのもいいかもしれません。

●漏水について報告

- ・村川での漏水について一昨年より、漏水があるとのことは把握しており、昨年度もまた、漏水が発覚

したため、本格的に調査を行いました。

→何度か聴音調査を行いました。原因はわからず、トレーサ式調査という、一旦水道管の中の水をすべて抜き、そこにヘリウムガスを入れ、地上で噴出すガスの濃度で漏水箇所を突き止めるという調査を行いました。

→結果として、母屋勝手口前にある水道下付近が漏水の原因であることが判明し、その漏水を止める工事を行い、無事に漏水は収まりました。

→漏水工事に伴い、一時的に水が出ないということが発生し、みなさまにはご迷惑をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

●景観散歩について

- ・第19回景観散歩ですが、村川ガイドの皆様から多数の参加をいただきました。ありがとうございました。当日は、天気にも恵まれ良い旅となりました。

公開講演会

我孫子稲門会総会において、辻さんによる公開講演会が行われます。

『手賀沼周辺の古墳時代—我孫子を中心として—』

○日時：平成26年6月14日(土)

15:00~16:00

○場所：アビイホール

(我孫子駅南口 イトーヨーカドー我孫子南口3階)

予約不要です。みなさんふるってご参加ください。

5月の来荘者数

平成26年5月の来荘者数は、388人でした!

平成25年5月 456人

平成24年5月 484人、平成23年5月 592人

段々と季節は進み、蒸し暑くなってきました。そんな中でも、村川邸内は木立に囲まれ、時折涼やかな風が吹きます。まさに絶好の森林浴スポットです。梅雨の季節にはなりますが、多くのお客様にご来荘いただきたいと思いますね♪

次回の月例会は・・・

次回の月例会は7月1日(火)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

早いもので、今年も既に半年が過ぎようとしています。そして夏もうすぐやってきます。村川にも蚊が飛び始めましたね…。暑さ対策も万全に、来る夏に備えたいところです。





# 旧村川別荘だより

平成26年7月11日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

7月の月例会が開催され、8月分のシフトが確認されました。変更点などがございましたら、ご連絡いただければと思います。

さて、4年に一度のW杯、盛り上がりましたね。次の開催地はロシアになるそうです。4年後の日本代表に注目したいですね！！

今月も暑い中にはなりますが、お当番どうぞよろしくをお願いします。



## 白樺文学館企画展示解説

今月は、7月3日より始まった企画展「柳宗悦展—出会いと絆の地、我孫子—」柳宗悦夫妻我孫子来訪100年記念について、白樺文学館の学芸員より解説がありました。

### ●宗悦の我孫子への想い

宗悦は「我孫子から」と題し、3回『白樺』に寄稿しています。そこには「家は手賀沼を臨んで木に囲まれた…中略…朝日は特に美しい光と熱…(一部抜粋)」というように、手賀沼を中心に緑と水に

囲まれた土地での執筆活動に期待

する文章が随所に書かれています。また浅川伯教をきっかけに、「染付秋草文面取壺」と出会った宗悦は、朝鮮への想い、そして「民藝」への想いを深めていきます。



(染付秋草文面取壺)

### ●ウィリアム・ブレイク研究とバーナード・リーチ

1906(明治39)年、学習院中等科在学中、宗悦はブレイク(宗教詩人、版画家)の詩集をリーチから勧められ、宗悦はブレイクの研究を重ねます。そして、1914(大正3)年、ブレイク研究をまとめた『ウィリアム・ブレイク』を刊行しました。当時、宗悦はブレイクに引き合わせてくれたリーチに向けて、感謝の意を表す書簡を書いています。

### ●バーナード・リーチと濱田庄司との出会い

リーチと宗悦は1909(明治42)年より交流がありましたが、リーチを介し、1918(大正7)年開催のリーチ第二回個展において、初めて宗悦と濱田庄司が出会います。濱田庄司の勤務先である京都陶磁器試験場には、先輩に河井寛次郎がおり、宗悦の交流の幅が広がります。



(バーナード・リーチ エッチング 手賀沼)

「民藝」という造語は、この3名によるものとされています。この出会いの連続が、「民藝」誕生の契機となっているのです。

### ●朝鮮への想い—浅川巧との出会い—

浅川伯教との出会いは、朝鮮工芸品蒐集家である弟の巧との出会いにも繋がります。宗悦は1916(大正5)年8月、初めて朝鮮半島へ向かいますが、そこで、朝鮮陶磁器をはじめとする、あらゆる造形美に魅了されます。朝鮮への愛着を持った宗悦は、その後の1924(大正13)年には、現在の日本民藝館の原点ともいえる、朝鮮民族美術館設立に尽力します。

「芸術はいつも国境を越え、心の差別を超える。」と宗悦の言葉にあるように、「民藝」にかけてきた宗悦の想いは、着実に形になっていきました。

### ●我孫子の絆—「我孫子から」にかける想い—

様々な出会いを重ね、宗悦は「民藝」の道へ進んでいきます。「我孫子から」には、「我孫子時代を通じて、最も大きな絆は、家族との絆、志賀直哉、武者小路実篤との絆、いわば我孫子の白樺派の絆…」と、書いているように、宗悦の我孫子に対する想いは、その文章にも表れています。



(バーナード・リーチの素描 我孫子・書齋の柳)

今回、写真類や直筆原稿「我孫子から」を展示しています。宗悦の想いをぜひ、感じてほしいと思います。  
 ※また、後述にあります**15日(火)開催の「内覧会」**において、これらにまつわる作品を、ぜひご覧いただければと思います(詳細は別紙)。

### 「竹灯籠の夕べ」お知らせ

今年は9月12・13日18時～20時を予定しております。今年も、昨年同様に金曜日・土曜日が開催日となります。今年もまた、皆様のご協力、よろしくお願い致します。なお、詳細が決まりましたら、また後日改めてお伝えします。



(昨年の様子)

### 連絡・意見交換など

- 旧村川別荘庭園だより
  - ・6月になり、ドクダミ、アジサイ、ムラサキシキブなど、花が盛んに咲いていました。
  - ・とても詳細に書いてあり、本のようにです。1年間も続けてきているのは素晴らしいことだと思います。
- いろいろ八景について
  - ・今年もいろいろ八景其三があります。これで最後になります。みなさん、ご応募よろしくお願い致します。(応募用紙、応募ボックスを設置してあります。)
  - ・また、先日の景観散歩について、村川ガイドの方からもたくさんご参加をいただきました。ありがとうございました。
  - ・以前、景観を育てる会から出された“桜マップ”とても役に立ちました。とても良いものだと思います。
- バーナード・リーチの椅子について
  - ・先の発表に関連して、村川にある椅子について出自を知りたいが、情報はあるのか?→小熊・西嶋・村川さんの座談会の記録の中に「村川さんがもらった」との記述あったのを記憶している。それ以上の情報はないのではないかと。
- 旧村川別荘の清掃について
  - 旧村川別荘の清掃状況について、様々ご意見をいただきました。みなさまありがとうございました。今回

出していただいたご意見をもとに、今後、課内で対応策を再考していきたいと思っております。

### 古墳の発掘について

現在、根戸船戸遺跡において(白山3丁目付近)古墳を発掘しています。また、成果が出ましたらお伝えします。なお、見学を希望される場合は、一度文化・スポーツ課に連絡を入れていただくと助かります。よろしく願いいたします。



(横穴式石室の様子)

### ★内覧会開催のお知らせ★(別紙参照)

7月1日より、白樺文学館・杉村楚人冠記念館において、両館をガイドボランティアの方(千葉県観光ボランティアガイド連絡協議会登録団体)がガイドで訪問した場合、ガイドの方ご本人の入館料を無料にすることとしました。あわせて、ガイドのみなさまを対象に内覧会を開催いたします。当日には、展示担当者からの解説がございます。ぜひご参加ください。

○内覧会実施日：7月15日(火)

○集合：現地集合(白樺文学館正面玄関)

○時間：午前10時 白樺文学館

午前11時 杉村楚人冠記念館

○参加費：無料

**申し込み締め切りを7月14日(月)までとさせていただきます。事後連絡になってしまい、大変申し訳ありません。ご参加される場合、14日に文化・スポーツ課(7185-1583)までご連絡ください。お待ちしております。(\*^\_^\*)**

### 6月の来荘者数

平成26年6月の来荘者数は、**244人**でした!

平成25年6月 408人

これから暑くなる季節になりますが、多くの方のご来荘をお待ちしたいです。みなさま、水分補給も忘れずしてくださいね♪

平成24年6月 337人

平成23年6月 694人

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は8月1日(金)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。



いよいよ、本格的な夏が到来します。当初、冷夏と言われていましたが、最新情報によると、今年の夏も「例年並み」とのことです…暑さに負けず、頑張ってください!!



# 旧村川別荘だより

89

平成 26年 8月 18日発行  
旧村川別荘市民ガイド事務局  
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
歴史文化財担当：須藤、工藤、田中  
〒270-1166  
我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL:04-7185-1583 (直通)  
E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

8月の月例会が開催され、8月分のシフト変更及び9月のシフトが確認されました。さらに、変更希望がございましたら、ご連絡いただければと思います。

8月1日は、年間で一番水を使用することから、節水を呼び掛ける意味で、「洗濯機の日」となっています。この暑さの中では意識しづらいことですが、水の使いすぎには気を付けたいですね。



## 戦に使用して

今回は、7月15日(火)から始まった杉村楚人冠記念館の第一次世界大戦開戦100周年企画「戦に使用して」の解説を行いました。先だって内覧会でもお話をしているので、内覧会では触れなかった楚人冠の文章を中心に紹介します。



そのみか、五十万人の義勇兵急募とあって、ロンドン市中のあらゆるタキシの上、あらゆる板塀の上に、募集広告が貼りつけられてある。

1914年8月4日に宣戦布告をしたイギリスは、楚人冠がロンドンに着いた9月にも盛んに義勇兵を募集していま

した。このためのポスターがロンドン市中の光景を作っていました。

・・・其の外夕刊の新聞には、随分受け取り難い大変な話が夫から夫へと出て来る。・・・どうしても昨今のイギリスはちと上せ気味としか見えぬ。

敵国ドイツに対する警戒心の高まりは、スパイ疑惑や、噂話の報道を生んでいました。そのなかにはデマ

としか思えないものも含まれていました。こうした報道を生むのも戦争だと言えるでしょう。

・・・新聞を取って見ると、驚くべし、昨晚ツェッペリンが東海岸のヤーモス附近を襲って、大分爆弾を投げたとの事が出ている。

一次大戦は戦車、飛行機、潜水艦など多くの新兵器が登場した戦争です。イギリスでは、ドイツのツェッペリン飛行船を恐れていました。ロンドンでは夜の照明が規制され、初めて体験する空襲に備えていました。

・・・此の村の百姓が砲丸の筒を売りに来た。一個一フランで銘々買い入れる。此の男、穿いている長靴を叩いて見せて、戦死したドイツ兵の屍体から取ってやったのだと示す。

大量の砲弾を投入した塹壕戦も一次大戦の特徴です。戦闘の跡には砲弾の薬莖

が残されていました。楚人冠はこれを拾って売り歩いていた男から買った薬莖を持ち帰りました。

・・・ベルジューム国皇帝陛下に向って、朝日新聞社長村山龍平君は頌徳の辞を上り、併せて太刀一口を之に献納したいということになった。

朝日新聞社からの指示を受けた楚人冠は、ベルギー国王に謁見し、日本刀を献上します。これを報道するとともに朝日新聞はベルギーに対する義援金募集を開始、戦争のなかで、両国の親善に一役買うことになりました。

(※楷書体は楚人冠の文章の引用です)



**連絡・意見交換など**

●旧村川別荘庭園だより

・7月のはじめと終わりとは、だいぶ庭の様子も違います。

・日を追って観察をした様子をお伝えします。

庭園だよりをもとに、季節感満載の庭の様子を紹介。

特にびっくりしたのは、今回は虫シリーズで、セミのおなかの中は空洞になっていて、それが共鳴板の役割を果たすことであんなに大きな声が出ているのだとか、ミミズはすりつぶして熱さましに使ったのだとか！



●来荘者数、イベントについて

・竹灯籠のタベが近づいてきましたが、ポスター、チラシが遅いとPR不足になるので、なるべく早く用意してもらえたらと思います。そうすれば、我々も早くから各所に配ったり、掲示の依頼ができます。

・旧村川別荘だよりの来荘者数の欄を見ていると、この頃はずっと昨年度の来荘者数を割っています。とても気になっており、我々ガイドの働きが悪いのもあるかもしれません（とんでもありません！）が、イベントや取組の工夫をお願いしたいと思います。→少しでもよくできるよう努めます！ご意見ありがとうございます。

●我孫子の文化を守る会放談くらぶについて

・インドに旅していろいろ感じたことなどを話題にしたら、講演を頼まれてすることになりました。

・我孫子の文化を守る会放談くらぶで「インドを旅して」と題し、3人で話します。3人目として「インドの農業潜在力」を話しますので、もし、お時間がありましたら、いらっしゃってください。

（ちらしを配布）

●旧平櫛田中邸について

・先日、ガイドの当番で入っていたときに、「NPO 法人たいとう歴史都市研究会」の方が偶然来荘されました。

・台東区では、古い建物が空き家になってその活用に苦慮している状況があるとのこと。

・そのなかで、旧平櫛田中邸のアトリエを活用しているいろいろな取り組みを進めているとのこと、パンフ

レットを置いて行かれましたので、ご覧ください。

●市民フェスタについて

・3月に、今回の市民フェスタは業者に頼むのでこれまでのような形態では行わない、市民団体の参加は特にないということになりました。

・ところが、今度9月30日14：00からアビスタホールで、各市民団体が出席して市民フェスタについての意見交換会を実施するので出席をという連絡がありました。

・もし、時間のあるかたは一緒に出席をしてください。また、報告書の予備を置いておくのでご覧になっていただき、ご意見をお寄せください。

●景観あびこについて

・景観あびこ第62号ができましたのでお配りします。

・景観あびこの表紙になっています、いろいろ八景「桜」と「水辺」の応募状況があまり芳しくありません。もし、ありましたらぜひご応募を。

●竹灯籠のタベについて

・竹灯籠のタベをお手伝いしてくださる方を募ります（シフトの希望を記入していただく紙を配布。）。

・ご協力可能な箇所に名前を書いていただき、ご提出ください。お電話やファクシミリでも結構です。

・今回は1日目にレコード鑑賞会、2日目にコカリナ（復活！）の予定で準備を進めています。

**7月の来荘者数**

平成26年7月の来荘者数は、192人でした！

平成25年7月 170人

平成24年7月 212人

平成23年7月 229人

とにかく、暑い日が続いた7月でした。8月も水分補給をしっかりと、熱中症対策をしてください☆

**次回の月例会は・・・**

次回の月例会は9月1日（月）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

8月2日（土）に、手賀沼花火大会が無事終了しました。花火を見ると「夏だなあ」と感じます。

花火、お祭り、かき氷…来月はもう9月です。今のうちに夏らしいことを体感しておくのも一つかもしれませんね。





平成26年9月10日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより



## 月例会が開催されました

9月の月例会が開催され、9月分のシフト変更及び10月のシフトが確認されました。さらに、変更希望がございましたら、ご連絡いただければと思います。

9月になり、「竹灯籠のタベ」がいよいよ近づいてまいりました!! 準備・片づけのシフト確認をしたところ(別紙参照)ではありますが、改めてご協力、よろしくをお願いいたします。



(▲昨年の様子)

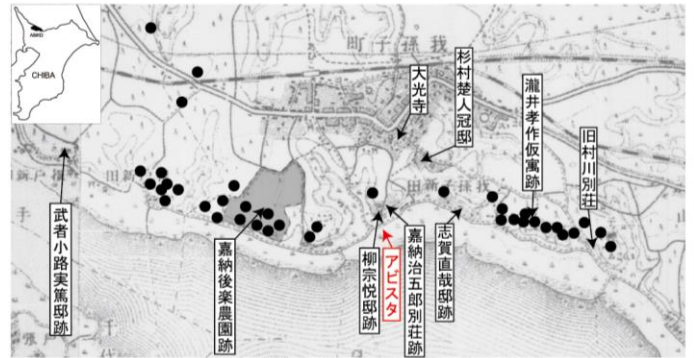
## 我孫子の地誌

今回の月例会は、先月の8月9・10日に我孫子を開催地として行われました“民藝夏期学校”で発表された「我孫子の地誌」—柳宗悦の「我孫子から(通信第二)」から読み解く— についてです(『民藝』2014年8月号掲載)。

柳宗悦は、大正3(1914)年、妻の兼子とともに我孫子の地を踏みました。その柳が我孫子移住直後の大正3年、翌4年、そして、東京へと帰る直前の大正10(1921)年の計三回にわたって記したものが「我孫子から」です。その中でも、今回は「我孫子から(通信第二)」の冒頭部分を読み解いていきます。

「(前略) 湖畔一帯に無数の古墳がある事を思へば…  
(中略) …古城趾と云われてゐるものも非常に多い…  
(中略) …古墳から出る石器、土器を別にしても此土地の遼遠な昔を語るものは、今土塊から掘り出される化石だらう、化石としてはもとより近代層のもの…  
(中略) …愛顧を受けるに足りると思ふ。」

我孫子には①無数の古墳がある、②城跡が多く認められる、③石器や土器より古い化石があるが、化石のなかでも新しいという三点に要約されます。今回、これら3点を歴史的に検証しています。



我孫子駅南側の文人旧居・別荘と古墳(凡例●)

まず、①について、手賀沼周辺台地縁辺部には、かつて古墳が数多く存在していました。嘉納後楽農園を設けた白山付近には、根戸船戸遺跡の古墳群、白山古墳群が広がっていました。

②について、我孫子以外にも、北総地域の台地縁辺部には、多くの中世城跡が認められます。我孫子市内でも、久寺家城跡、我孫子城跡、根戸城などがありました。当初、杉村楚人冠は我孫子城跡を別荘とする予定で、その別荘を白馬城と言うことに決めていました。結果として、現在の場所(緑2丁目)に別荘を構えましたが、そこでも白馬城の名を別荘につけたという逸話があります。

③においては2つの意味を考えることができます。

一つは「化石」=「貝塚の貝」との判断です。柳が我孫子駅と住まいを往復する際に通った大光寺には大光寺貝塚がありました(現在は消滅)。明治20年頃から手賀沼対岸の柏市鷺野谷に居住



(▲坪井正五郎)

していた染谷大太郎により遺物採取が進められ、周辺遺跡の遺物とともに坪井正五郎に献呈されました。坪井正五郎は、明治から大正時代を代表する人類学者です。大光寺貝塚は、明治30(1897)年に東京帝国大学が刊行した『日本石器時代人民遺物発見地名表』に掲載、坪井自身も、明治33(1899)年に遺物採取を実施したことから、東京近郊の「遺物

を拾える場所」として、学生や研究者に認知され、遺物採取地となっていました。村川堅固の次男である村川正二は、家族で我孫子に來た際「…かひづかと言う所に行って千年いじゃう前のやきものなどもひろった」と大正11（1922）年に記しています。

（右：坪井止五郎撰と刻まれた部分拡大）  
（左：明治三年染谷天太郎建立「古墳之址」）



二つ目に考えられるのは「化石」＝「化石貝」との判断です。柏市沼南地区東部から印西市付近の崖には「木下層」と呼ばれる化石貝を含む地層があります。地層には、アカガイなど二百種類にも及ぶ貝類の化石が含まれますが、恐竜の時代（古生代）ではなく、柳の指摘通り、それよりも新しい時代のものだということがわかっています。明治時代後期から昭和にかけて活躍した地質学者・<sup>やべひさかつ</sup>矢部長克は木下層の貝化石の特徴から、かつてはこの辺りが「古東京湾」と呼ばれる海底が広がっていたことを指摘しています。砂岩質で切り出ししやすい木下層は、古墳時代から石室石材に利用され、近世では家屋の礎石や石造物の台石として、手賀沼周辺の多くの住宅、寺院に利用されています。

柳の我孫子についての記述は、現地を見なくては書けないものであり、その分析は極めて的確でした。

また柳は、東京帝国大学を卒業した知識人として、最先端の情報を知りうる立場であり、学問が実証の時代へと進化しつつあったことを体感していたと考えられます。このように「我孫子から（通信第二）」に見られる柳の観察の正確さ、その精神は「白樺」や「民藝」といった新しい価値体系の成立過程を考える上でも、今後大変参考になるのではないかと思います。

今年は、柳夫妻が我孫子へ来て100年です。今年一度、我孫子時代の柳に注目してみたいかがでしょうか。（※楷書体は柳宗悦の文章の引用です）

## 連絡・意見交換など

### ●旧村川別荘庭園だより

- ・8月はアゲハチョウ、セミ、様々な昆虫を見かけました。セミは抜け殻も種類によって異なります。
- 竹灯籠について、昨年と変更になった点などがありますか？

→特に変更点はありません。改めてよろしくお願いたします。こちらでも用意をしますが、虫よけの対策をお願いします！！

### ●根戸船戸1号墳出土遺物について

- ・出土した刀剣類はどうなるのでしょうか？

→今後、速やかに保存処理に回すこととなります。保存処理には1年ほどかかるため、終了したのち、またみなさんにご報告できればと思います。

### ●我孫子の文化を守る会放談くらぶ

- ・インドを旅した講演会ですが盛況に終了しました。
- ・モディ首相の講演会に行く予定なので、また話をまとめて、みなさんにご報告します。

## ※竹灯籠のタベについて

お手伝いして下さる方を募集しています。

現在、9月12日（金）の準備（16時～18時半）、13日（土）片づけ（18時半～21時）について、人手が不足しております。もし、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ご一報いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

## 8月の来荘者数

平成26年8月の来荘者数は、124人でした！

平成25年8月 272人

平成24年8月 96人

平成23年8月 190人



8月は、暑さ、台風など…近年にない夏だったような気がします。みなさま、体調にはくれぐれもご留意ください。

## 次回の月例会は・・・

次回の月例会は10月1日（水）9時30分から旧村川別荘新館で開催しますが、**シフト確認等が終わりましたら、そのまま歩いて白樺文学館へ移動します。そこで、白樺文学館の秋季常設展の解説を実施する予定です。**いつもと異なりますが、よろしくお願いいたします。





# 旧村川別荘だより

平成26年10月21日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
 歴史文化財担当：須藤、工藤、田中  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子1684番地  
 TEL:04-7185-1583(直通)  
 E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp



## 月例会が開催されました

10月の月例会が開催され、11月分のシフトが確認されました。変更点などがございましたら、ご連絡いただければと思います。

さて、気づくともう10月です。台風も過ぎ去って、いよいよ本格的な秋に入りました。紅葉もまもなくですね！

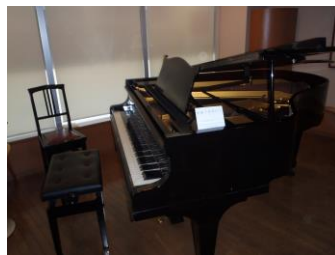


## 白樺文学館常設展示解説

今月は、10月1日～平成27年2月22日(日)まで開催の常設展「民藝運動と我孫子」を、現地白樺文学館で、直接解説を聞きながら見学しました。

### ●白樺文学館サロン

白樺文学館は、2009(平成21)年に民間から我孫子市へと移管され、我孫子市白樺文学館として再出発を果たしました。2014(平成26)年2月末には、日本民藝館より、アルトの音楽家で、柳宗悦の妻である柳兼子が晩年愛用した河合楽器製のグランドピアノが寄贈されました。そして、今月より、ボランティアスタッフが中心となり、館内BGM演奏を、開催することになりました。



(柳兼子愛用のグランドピアノ)

市民の交流の場、出会いの場、絆を深める場としての空間演出を目指しています。



(志賀直哉「聴松汀居」)

### ●民藝への歩み

今でこそ、馴染みとなった「民藝」という言葉ですが、「民藝」とは、そもそも1925(大正14)年に柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司によって生み出されました。改めて、その歴史を辿りたいと思います。

1914(大正3)年9月、柳夫妻が我孫子に移住します。我孫子では浅川伯教との出会いをきっかけに、朝鮮への渡航、そして浅川伯教の弟、巧と出会います。

朝鮮陶磁器や建築をはじめとする朝鮮の優れた造形美に魅了された柳は、1924(大正13)年に、朝鮮民族美術館の開設を成し遂げました。



(朝鮮工芸品)

また我孫子で濱田庄司と出会ったことが縁で、柳が京都へ移住した際、濱田の先輩である河井寛次郎とも出会うこととなります。この出会いの連続によって、「民藝」が生まれたのです。

### ●民藝の人々

柳宗悦によってはじめられた「民藝」運動。その運動に関わった人物を挙げればきりがありませんが、文学館所蔵作品の主な作家たちは、以下の通りです。

- ・河井寛次郎…陶芸家
- ・濱田庄司…陶芸家
- ・棟方志功…版画家
- ・芹沢銈介…染色家
- ・黒田辰秋…木工芸家、漆芸家
- ・富本憲吉…陶芸家
- ・バーナード・リーチ…銅版画家、陶芸家



(芹沢銈介の作品)

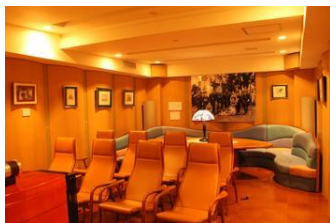
その他にも、全国各地に民藝の人々がおり、彼らを掘り起し、そして評価していったのが柳宗悦です。2階に展示している色紙の1つには、民藝を代表する著名な人々の署名が入っていますが、その色紙のデザインは棟方志功です。そしてその署名色紙の額は、黒田辰秋の作品です。まさに「友情の美」と言えますね。

●柳兼子の絶唱～我孫子への想い～

柳宗悦、兼子夫婦は我孫子で約7年を暮らしました。兼子にとって我孫子はどんな土地だったのでしょうか。ここでは、その回想録を交えてその我孫子への想いを感じていただきたいと思います。

「はじめはいい気持でしたよ。私田舎が好きでしたから。やっぱり田舎はたまにいくとこなんですね（笑）始終の生活はちょっと…。生活はわずらわせられることばかりで。奥さんなんぞはよけいそうです。」

このように、夫・宗悦と2人の子ども、週5日柳邸で仕事をするリーチの世話。そして、柳を訪ねてくる人々へのおもてなし…兼子にとって、我孫子は新婚時代を過ごしたところでしたが、家庭を守る妻として、多忙であったことが、この回想から想像されるようです。（地階 音楽室）



白樺文学館地下音楽室では、そんな柳兼子がアルトの声楽家として活躍していた歌声を、じっくり鑑賞していただくことができます。

リニューアル常設展とピアノ演奏。お知り合いの方が我孫子へいらした際には、ぜひ白樺文学館へお立ち寄りいただければと思います。（\*^\_^\*）

★「竹灯籠の夕べ」報告★

今年は9月12日（金）、13日（土）18時～20時に「竹灯籠の夕べ」を実施いたしました。

来場者は、昨年より増加しまして合計で600名以上の方にお越しいただきました。



12日（金）には、SPレコード鑑賞会を、13（土）には、2年ぶりにコカリナの演奏をお楽しみいただきました。両日とも、昔懐かしい曲、知っている曲には口ずさむ場面も見られ、子どもから大人まで、ゆっくりとした時間を過ごしていただくことができ

ました。

幸い、2日間ともお天気に恵まれて、幻想的な村川別荘を体験していただけたと思います。



（多様なコカリナの種類）

当日の準備、そして、片づけまで、ご協力いただきましたガイドのみなさん、本当にありがとうございました！！（\*^\_^\*）

連絡・意見交換など

●庭園だより

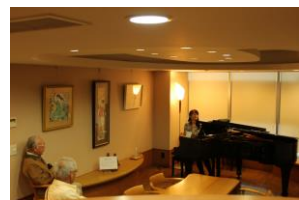
・9月は多くの生き物がいました。植物も、多様に生息しています。ぜひ、歩いてみてください。

●景観散歩について

・12月3日（水）に行います。今回は、東京都福生市を歩きます。武蔵野の土地を感じてもらえればと思います。10月22日（水）～受付を開始します。チラシ配布も今はできないので、口頭でお知らせします。

★内覧会実施報告★

10月15日（水）に、7月にも実施しました杉村楚人冠記念館、白樺文学館の内覧会を実施しました。村川ガイドのみなさまには、月例会で白樺文学館に足を運んでいただいたばかりですが、両方の館を回ることで、また新たな発見もあったかと思えます。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。今回都合が合わなかった方も、また次回の内覧会をお待ちください。



（白樺文学館 当日の様子）

9月の来荘者数

平成26年9月の来荘者数は、848人でした！

平成25年9月	866人	竹灯籠の夕べ開催もあり、今月
平成24年9月	774人	は来荘者数も増加しました♪
平成23年9月	1023人	

次回の月例会は・・・

次回の月例会は11月1日（土）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

今年は残暑があまりなく、急な冷え込みに季節の進み具合が早いと感じた方も多かったのではないのでしょうか。そのため、紅葉も例年より早まるとの話もあります。この機会に深まる秋を感じる事ができればいいですね。





# 旧村川別荘だより



平成26年11月28日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

11月の月例会が開催され、11月分のシフト変更及び12月のシフトが確認されました。さらに、変更希望がございましたら、お早めにご連絡いただければと思います。

今年もあと1ヶ月ほど…と思うと、本当に月日が経つのは早いと感じます。



## 「楚人冠が書いた我孫子の暮らし」解説

今回は、10月11日(土)から始まった杉村楚人冠記念館冬期企画展「楚人冠が書いた我孫子の暮らし」の解説を行いました。ここでは、「アサヒグラフ」に掲載された我孫子の日常を書いた記事を紹介します。

### ○鴨猟の文化

・・・真鴨ばかりがよい訳ではない。真鴨でないのをこの辺では雑鳥ぞうじりとなへてゐるが、その雑鳥の中にも、遥かに真鴨より旨いものがある。・・・冬になると、この湖水で盛に鴨が捕れて、鰻や公魚と共に、湖水の名物となっているのである。・・・大体ふんだんに見かけるのは、鴛鴦と真鴨の外に、カニガモ(夏ガモ)、ヨシガモ、小鴨、トモヘガモ、ハシビロガモ、尾長ガモ、ヒトリガモ(あかがしら)、キンクロハジロ、スズガモ(なきはじろ)の九種類ぐらいです。・・・(昭六、一、二十一)

「かも」と題された文章中には、当時、鴨猟が盛んに行われていたことや、真鴨だけではなく他のカモ類も盛んに獲れた様子が描き出されています。

かつての手賀沼は、水鳥の宝庫であり、現在は干拓された沼の東部では、鴨猟が貴重な収入源でした。現在は水田となっている利根河原の低湿地にある沼においても、鴨猟が行われていました。



上の写真は、張切網による猟の様子を撮ったものです(下の写真は捕えられたマガン)。柏市布施弁天裏側にあった和田沼(現在はありません。)周辺では、昭和10年前後には鴨猟が盛んに行われていました。

### ○沼の名物・鰻

・・・ただ昔から広く日本一と伝えられて、東京の鰻屋では、どこのよりもこの湖水のを珍重する。今度県で淡水魚養殖試験場でも開いて、これを調査して見ようかといふ話が出た時、一番に大賛成を表したのは、地元の者よりも、東京の鰻屋であった。・・・

当時、手賀沼の鰻は名産として知られていました。天然鰻の漁獲量が多く、現在ほど養殖鰻が普及していなかった時期のことです。また楚人冠は、手賀沼の鰻が「口細」と特別な呼称を持っていたことを記しています。

(▼ウナギダレ)



・・・「湖北村誌」という書物の中にも、ここの鰻は火にあぶるも決して縮小せず、味の美なること他のおよぶところに非ず、されば東都において江戸前と称する最上品なり、などと書いてある。何でも仙台や上総辺から仕入れたものを、十日ばかり笹のままで湖水の水に浸しておく、土地の鰻とごまかせる位だそうなの・・・(大正十五年十月)

当時、鰻の味がよくなるくらい、手賀沼の水がきれいであったことがこの文章から読み解けます。

楚人冠の随筆をとおして、昔の我孫子の暮らしを感じてみてはいかがでしょうか。平成27年1月12日(月・祝)まで開催中です。ぜひ、足をお運びください。!(^)!

### 連絡・意見交換など

#### ●旧村川別荘庭園だより

・今回は、少し違った形にしてみました。ガイドの参考にしてください。

#### ●ダイヤモンド富士

・ガイド日比野さんより説明がありました。旧村川堅固別荘周辺の斜面緑地でダイヤモンド富士が見られるそうです。(1月23～24日没、11月18～19日没)よかったらぜひ・・・

→見た方、いらっしゃいますか??

#### ●奈良記紀サミット

・平成26年度「観光ボランティアガイド奈良記紀サミット」のご案内(平成27年2月5日(木)～2月6日(金)会場:檀原)

#### ●J:COM 放送について

・東葛調査隊!のシリーズ「東葛歴史さんぽ」の2回目を放映します。

・今回は、東我孫子からスタートです。

・放送は11月3日(月)～11月9日(日)前編、11月10日(月)～11月16日(日)後

編でした。詳細な時間は未定ですが、期間中何回か繰り返して放送されたようです。

後日、前回同様にDVDができると思いますので、見逃した方は、ぜひそちらをご鑑賞ください。

#### ●SPレコード鑑賞会/文化財展

・11月22日(土)に、今年もオーディオファンクラブと共催でSPレコードの鑑賞会を行うことになりました。(13時半～14時半、15時～16時までの2回です。→無事に終了しました!)

・今年の文化財展「速報 根戸船戸遺跡1号墳の発掘調査」は11月18日(火)～平成27年3月22日(日)です。

#### ●冬時間について

・今年はいつから冬時間となりますか?

→12月より開始とし、開始9時半～、終了15時半とします!

### 10月より新しい市民ガイドが加わりました!

10月に入り、水野さんという女性のガイドさんが、新しく旧村川別荘市民ガイドに加わっていただけることになりました!!

しばらくは見学期間とさせていただきますが、これから徐々にガイドの活動に慣れていってもらえればと思います。また、近く、ご紹介いたしますので、よろしく願いいたします。(\*^\_^\*)

### 10月の来荘者数

平成26年10月の来荘者数は、346人でした!

平成25年10月 340人

平成24年10月 266人

平成23年10月 553人



10・11月に入って、団体のお客様が多く来荘されるようになりました。今後も引き続きご対応お願いいたします♪

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は12月1日(月)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

今年も気づけば本当にあっという間ですね・・・

今回はおたよりや月例会通知の発行が遅れてしまい、大変申し訳ありませんでした・・・

次回以降、また気を引き締めて頑張りたいと思います。





# 旧村川別荘だより

93

平成 26 年 12 月 19 日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
 歴史文化財担当：須藤、工藤、田中  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子 1684 番地  
 TEL:04-7185-1583 (直通)  
 E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

12月の月例会が開催され、12月分のシフト変更及び来年1月のシフトが確認されました。年末年始が近づきます。変更等がございましたら、お早めにご連絡いただければと思います。



## ブルーノ・タウトと旧日向別邸から考える

今月は、ブルーノ・タウトという人物を中心に、タウトが設計に関わった旧日向別邸などを紹介しました。西洋人にとって、日本の建物がどのように捉えられていたのかを知る良い機会になったのではないのでしょうか。

### ○ブルーノ・タウトとは？

Bruno Taut(1880～1938)は、東プロシア(現在はポーランド及びロシア領)ケーニヒスベルク生まれの建築家です。建築事務所に勤め、感情を作品に表現する



(▲ブルーノ・タウト)

「表現主義」建築(いびつな形状や多色、ガラス、鉄などを多用する)に携わり、1924～1933年に集合住宅団地ジードルング 12000戸を設計しました。



(▲ブリッツ地区の馬蹄形ジードルング)

それは一定間隔の建物配置、通風や採光の工夫等、“田園都市”としての機能を備えたものでした。

### ○タウトの来日

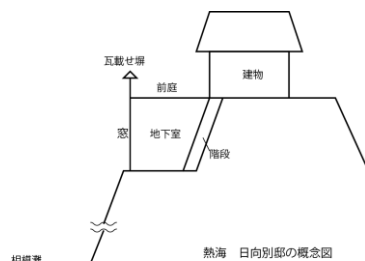
1933年、タウトはドイツから亡命し、日本へと訪れます。そこで、上野伊三郎、下村正太郎、久米権九郎、井上房一郎、日向利兵衛ら5人の日本人と出会います。上野はタウトの滞在ビザ取得に奔走し、大丸呉服店の11代目であった下村はタウト来日後、京都の自宅にタウトを住ませます。また、久米は上野、下

村と共にタウトの就職のために奔走した人物です。その後、井上によって、1934年に高崎にある少林山達磨寺の洗心亭に招かれ、そこで2年間を過ごしました。

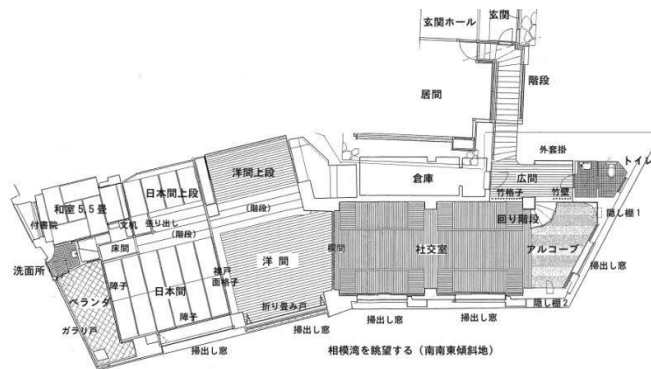
日向利兵衛は実業家で、高級家具店「唐木屋」の息子でした。この日向が、自身の別荘地下室の内装設計をタウトに依頼した人物です。結果的に、それは日本で唯一のタウトの設計による建造物となりました。

### ○旧日向別邸とタウト

1933年、日向利兵衛が熱海に温泉付き別荘敷地を購入し、建築家渡辺仁に設計を委託します。翌年には完成となりますが、地下室に不満を持ち、



1935年、タウトに地下室の内装設計を依頼し、その翌年に新しい地下室が完成します。地下室は、建物入口脇の階段を降り、3部屋の地下室「社交室」、「洋間」、「日本間」が設置されました。



社交室は玉突きや卓球、ダンスの部屋として、洋間は崖側に4段の階段が設けられ、奥に上段の間。窓はガラス折戸となっており、全開して階段に座ると相模灘と一体化する仕掛けとなっています。また、日本間は、奥に5畳半の和室(茶室)を設け、柱や階段はベンガラ色の漆仕上げ、壁は鶯色の土壁、天井は竿縁天井となっていました。

タウトは「表現主義」により、多様な素材、豊かな色彩表現によって建物をデザインしています。夏が暑い日本の風土を理解し、快適に過ごす工夫や素材選びをしているところにタウトの日本への愛着が感じられます。

#### ○日本におけるタウトの活動

タウトは、桂離宮、日光東照宮との対比を行い、日本建築の再評価を行いました。その結果、桂離宮に日本の伝統美を見出し『日本美の再発見』などを著します。日本の数寄屋造りの中に西洋のモダニズム建築に通じる近代性があることを評価し、日本人の建築家に対し、伝統と近代という問題について大きな影響を与えたのです。

#### ○タウトのその後

タウトは、トルコのイスタンブール芸術大学の建築学科長として招聘され、1936年9月に旧日向別邸地下室の竣工を確認した後、10月にはトルコへ向かい、日本を去ることになりました。

このように、タウト自身は、西洋人でありながらも、日本の古建築を再評価し、それを自ら設計した建築物に取り入れました。旧村川別荘に置き換えてみれば、村川堅固も日本人でありつつ、西洋を感じ、評価していたからこそ、和洋折衷な旧村川別荘が造られたのではと、共通項を考えることができると思います。

旧日向別邸はその後、熱海市に寄贈され、2005年より一般公開、そして翌年、前述した地下室は重要文化財に指定されました。みなさまも、機会があれば足を運び、その土地の風土、建物を直接肌で感じてみてはいかがでしょうか。(\*\_\*)

#### 連絡・意見交換など

##### ●庭園だより

・今回も前回同様な形式にしてみました。ガイドの参考にしてください。

##### ●見学中の注意について

・先だって開催されたウォーキングイベント時に、来荘者が70名ほどあった。見学者に子どもも含まれており、母屋、新館内を走り回ったり、ソファの上で飛び跳ねたり等、節度のない行動が見られた。→注意を促したが、母屋にも新館にも来荘者がいたため1人で対応が難しかった。ガイドのシフトな

どの組み方を、大きなイベントがある際などは2人体制にするなど、配慮をお願いしたい。

⇒ご迷惑をおかけしてすみませんでした。こちらでも、イベントの事前把握などに努めまして、シフトへ反映していきます。

##### ●冬時間について

・12月より、ガイドのみなさんの活動時間を短縮し、午前は9時半から、午後は15時半までとさせていただきます。来荘者の方がいらっしゃる場合には、臨機応変な対応をお願いいたします。  
※旧村川別荘の開館時間が変更になるわけではありません。ご注意ください。

#### 文化財保存基金について

先日、旧村川別荘新館に設置してあります文化財保存基金の募金箱の回収・集計を行いました。

その結果、約1年間で「**55,500円**」の基金が集まりました。これも、ガイドのみなさまのお声掛けの結果だと思います。今後とも、よろしくをお願いいたします。



#### 11月の来荘者数

平成26年11月の来荘者は **677人**でした！

平成25年11月 482人

平成24年11月 608人

平成23年11月 0人(工事期間中のため)

11月、12月と日が増すにつれて、寒さが堪えますね。ガイドの際は、温かくしてくださいね♪

#### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は、**平成27年1月8日(木)** 9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

そのあと、11時30分より矢野さんのご提案で昼食会を開くことになりました！！もし、お時間ありましたら、ぜひご参加ください。(詳細・出席表は、別紙をご参照ください。) **12月24日(水)までの**締切とさせていただきます。

最後になりましたが、今年もガイドのみなさまには大変お世話になりました。年末年始が近づき、寒さも増しますが、体調にはどうぞご留意ください。そして、来年もまた、よろしくをお願いいたします。





# 旧村川別荘だより



平成27年1月27日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
 歴史文化財担当：須藤、工藤、田中  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子 1684 番地  
 TEL:04-7185-1583 (直通)  
 E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

あけましておめでとうございます。(\*\_^\*)

平成27年1月の月例会が開催され、1月分のシフト変更及び2月のシフトが確認されました。本年も、改めてどうぞよろしくお願いいたします。

## 灰皿の謎に迫る

今月は、昨年4月にガイドの荒井さんからお預かりした「灰皿」を巡る調査結果を、現場検証をはじめ、身辺調査、聞き取りなど、約9か月にも及ぶ調査を通して得られた情報を発表いたしました。!(^)!

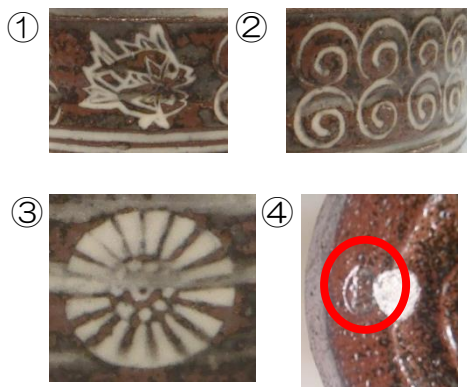
### ○現場検証



▲荒井さんがお持ちになった「灰皿」

2014年4月のある日、ガイドの荒井さんが「灰皿」をお持ちになりました。お話を聞くと「灰皿」は河村蜻山作だとか…。そこで、私たちはこの灰皿の謎を追うことにしました。

### ○4つの手がかり



灰皿には、4つの手がかりがありました。

1つ目は、魚の模様、2つ目は、渦巻き状のもの、3つ目は、菊の印のような模様です。

4つ目は、見えにくいのですが、○のなかには「あびこ」の落款が刻まれていました。これは…!と、過去に我孫子で開催された「河村蜻山展」の図録にあたってみました。すると、①～③までの特徴に似た蜻山の作品がいくつか見つかったのです。

### ○身辺調査

湖舩吟社のメンバーが書いた『雲の流れ』という書籍によれば、「小熊さんが郵便局長就任時に記念品として、知人に贈り物をするため、当時我孫子に窯を設けていた河村蜻山先生に灰皿を作ってもらった」といった内容の記述がありました。小熊さんが郵便局長を務めていた時期は、昭和17年7月から昭和42年。河村蜻山が我孫子に居た時期は昭和13年から昭和29年までなので、就任記念ならば昭和17年頃と予測されます。



また、杉村楚人冠の日記にもあたってみましたが、こちらからは、郵便局長就任に関する記載は見つかったものの、灰皿に関する記述は見つかりませんでした。

### ○鎌倉・明月窯

『雲の流れ』に記載されている内容を裏付けるための調査として、河村蜻山の窯を継ぐ鎌倉の「明月窯」



▲北鎌倉からほど近い「明月窯」

に連絡をとり、「灰皿」を鑑定していただくことになりました。そして2か月前の11月某日、現地へ赴くことになりました。

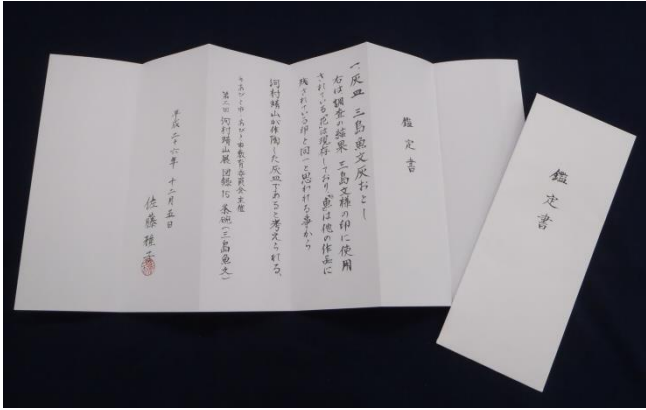
### ○鑑定

現在窯を継ぐ方は、河村蜻山のお孫さんです。早速、現物を見ていただいたところ、河村蜻山の作だという、動かぬ証拠「印花」が登場します。印花とは、陶磁器の技法の一つで、器の表面に花などをあしらった押印をします。よく見ると、灰皿の3つ目の手がかりにそっくりです。



そして……





ついに、「河村蜻山の作と同一のもの」と ▲鑑定書  
認定していただきました。

それから1か月後、灰皿の名前を「三島魚文灰おとし」という鑑定書と、箱書きも書いてくださり、見事、お墨付きをいただいたのでした。

最後になりますが、一連の調査結果をこの灰皿の所有者の方へお伝えしたところ、我孫子市へ寄贈をしてくださるとのお話をいただき、これからは我孫子市教育委員会大切な文化財として、守っていくことになりました。

この「灰皿」が、実は河村蜻山の作品だったとは…。みなさま、一様に驚いていただいたと同時に、持ち主の方が我孫子市の方へご寄贈していただいたことが、私たちとしても大変ありがたく、また嬉しかったです。ご協力をいただいたみなさま、本当にありがとうございました。( ^ \_ ^ )

### 連絡・意見交換など

#### ●庭園だより

・今回は、12月のとある日の庭園観察の一コマを説明していただきました。樹木、鳥、植物、今回もたくさん勉強させていただきました。

#### ●ひなのまつり

・今年は2月24日(火)～3月8日(日)です。  
・開始前日、終了翌日には準備、片づけを行いますので、お時間ある方はお手伝いいただければと思います。

→多数の方に手を挙げていただきました。準備、片づけともに9時半より開始いたします。よろしくお願いいたします。

#### ●我孫子いろいろ八景<其の三>

・「いろいろ八景<其の三>発表会コンサート」を行います。内容は「桜八景」、「水八景」です。

・全席自由席で1000円です。ぜひ、お時間ある方はお申込みください。

#### ●冬時間について

・「ひなのまつり」開催に合わせて、冬時間は終了とします。そのため、2月24日(火)からは、通常の9時開始、16時終了とさせていただきます。ご協力お願いいたします。

### 昼食会♪

月例会終了後、昨年末に矢野さんにご提案していただきました「昼食会」を、鈴木屋(寿1丁目)で開催いたしました。当日は、吉澤さんをはじめ、17名のガイドのみなさまにご参加いただき、それぞれに実りある時間を過ごすことができました。今年の抱負を各自が発表するなど、お互いを改めて知ることができる機会となったと思います。

矢野さんをはじめ、みなさま本当にありがとうございました。( \* ^ \_ ^ \* )

### 「ひなのまつり」について

改めまして、今年も、鷺見さんに全面的にご協力いただきまして、2月24日(火)～3月8日(日)の期間で開催いたします。今年も、その期間中、午前・午後ともに2人ずつのシフトにしています。新館、母屋といていただけると大変心強いです。

回数が多くなってしまう方もいらっしゃるかと思いますが、どうぞご協力いただきますよう、よろしくをお願いいたします♪

### 12月の来荘者数

平成26年12月の来荘者は 179人でした！  
平成25年12月 200人  
平成24年12月 250人  
平成23年12月 0人(工事期間中のため)

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は、平成27年2月1日(日)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

先日、雪がちらつきました。(今年は暖冬の予報だったはず…と思うのは私だけでしょうか…。)

暦の上では大寒を過ぎましたが、これからが一層寒くなります。みなさま、どうぞ暖かくしてお過ごしください。





# 旧村川別荘だより

95



平成27年2月20日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

2月の月例会が開催され、2月分のシフト変更及び3月のシフトが確認されました。早いもので、年度末が近づきます。変更希望がございましたら、お早めにご連絡いただければと思います。

## テーマ展示「楚人冠の本棚」解説

今回は、1月14日(水)から始まった杉村楚人冠記念館テーマ展示「楚人冠の本棚」の解説を行いました。その一部を紹介します。

### ○風刺画の世界 ～阿修羅帖

新聞・週刊誌と風刺画は昔から切っても切れない関係にあります。今回紹介するのは、建築家伊東忠太が公開するつもりもなく、第一次世界大戦の間、個人的に書きためていたというものです。

この伊東の絵に目を付けた嵐田栄助は、本来は手刷りの浮世絵も機械印刷できるようにした「國粹印刷法」での出版を計画します。しかも、伊東の画に著名人の「画賛」(絵に添える文、漢詩、短歌など)を付けようというアイデアを杉村楚人冠のもとに持ち込みます。楚人冠は、

この画賛の取りまとめ役を引き受け、様々な人に伊東の風刺画を送って画賛を求めました。こうして、伊東忠太と杉村楚人冠の共著として『阿修羅帖』全5巻が完成しました。

月例会では柳田國男、村川堅固が画賛をつけた風刺画を



(上) 『阿修羅帖』 柳田國男の項

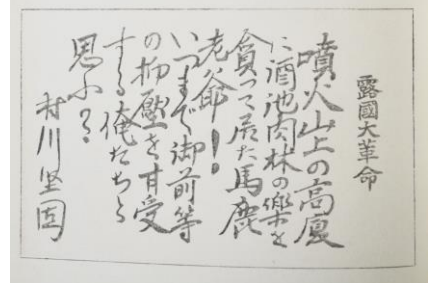
紹介しました。このほか、与謝野晶子、芥川龍之介、渋沢栄一の画賛を展示では紹介しています。村川堅固に依頼したのは「露国大革命」という風刺画で、西洋史学者の村川にふさわしいテーマとして選んだのでしょう。展示した他にも、南方熊楠や平塚らいてふ等、様々な人が楚人冠の依頼に応じています。

### ○震災の記憶

次に紹介するのは『大震災写真画報』という本です。第1集の発行日は地震からわずか2週間後の大正12年9月15日、発行元は大阪朝日新聞社です。震災により東京朝日新聞社の社屋は全焼しました。東京朝日では撮影したフィルムを記者に託し大阪へ派遣、この記者は橋が崩落した相模川を泳いで渡り、そこから駿河小山駅(御殿場線)まで歩いて何とか汽車に乗り、大阪へ一番乗りをしたといっています。こうして大阪へ持ち込まれた写真は、早速紙面に出て東京の被害を伝え、またこの『大震災写真画報』にまとめられて、全国の人へ震災の惨状を伝えるとともに、後世への記録となったのです。

### ○旅へのいざない ～ベデカーの旅行案内記

記念館の本棚にある、楚人冠が使ったヨーロッパの旅行ガイドはすべて“Baedeker”というシリーズです。これは、カール・ベデカーというドイツの出版社で、イギリスのジョン・マレーとともに現在の



(上) 伊東忠太の風刺画と村川堅固の画賛

ガイドブックのルーツになったといわれるものです。楚人冠もその評判の高さから、ベテカーを購入したのでしょう。

○ 近代日本の新聞を創った人々

最後は楚人冠のコレクションから、近代日本の新聞人を紹介します。

・宮武外骨がいこつ・・・東京大学の明治新聞雑誌文庫の資料収集にあたった人物です。その反骨精神と、資料を後世に残そうとした姿勢は楚人冠に似たところがあるかもしれません。

・徳富蘇峰とくとみそほう・・・思想史に大きな影響を残したジャーナリストです。『国民新聞』を発行しました。楚人冠も尊敬していた先輩です。

・本山彦一もとやまひこいち・・・現在の毎日新聞の前身の経営者です。新聞社に予算を導入し、新聞が政党の機関紙、資本家の持ち物から営利事業に脱皮する先鞭を付けました。

・村山長拳ながたか・・・朝日新聞の社主の娘婿です。新聞社の事業として航空事業を手掛け、東京・大阪間の初めての民間定期航路開設に貢献しています。

このように、楚人冠の蔵書は、彼の知識を形作った本や新聞社での活動を記念する本など、様々なジャンルにわたっていたことがわかります。

私たちも、たくさんの本に囲まれている毎日ですが、1つ1つの本から得られる情報を自分の糧にもしたいですね。展示期間は3月8日(日)までとなります。どうぞ、足をお運びください。(\*^\_^\*)

### 連絡・意見交換など

#### ●庭園だより紹介

・シイノキとスタジイについて、話題になりました。  
・先日、小さい鳥がたくさん集まっていたことがあったが、なんだろうか？(日暮さん)→シジュウカラやコゲラか…。

#### ●ダイヤモンド富士について紹介

・荒井さんのご友人の方がダイヤモンド富士の写真を撮影しました。→回覧しました。

#### ●来荘者の方の情報について(日比野さん)

→情報提供ありがとうございました。

#### ●ひなのまつりおよびイベントについて

・2月24日(火)～3月8日(日)



まで、「ひなのまつり」を開催します。

・2月23日(月)に準備、3月9日(月)に片づけを行います。

→お時間ありましたら、両日、9時半からお集まりください。

・また、2月28日(土)10時～14時半(売切れ次第終了)で、あびこ農産物直売所あびこん加工部の方のご協力により、新館にて「桜餅実演販売」を行うことになりました。当日は、新館でお茶をご用意し、ご来荘された方に桜餅を食べていただこうと考えています。

#### ●報告等

・桜餅を旧村川別荘でいただき、その足で「いろいろ八景コンサート」へお越しいただきたい。席はだいぶ埋まってきていますが、まだ残席はあるので、お時間がよかったです。

・「景観あびこ」最新号を少々置いていきます。景観散歩中にあった反省点等、書いてありますので、行かれた方はぜひ手にとってお読みになってください。

・あびバス景観散策MAP「パート2」が出ました。パート1に引き続き、大変細かく、様々な情報が書かれています。これを持って、我孫子を散策してほしいと思います。ただ、乗り継ぎをするのが大変なので、車窓空間はもとより、バスを降りて歩くというスタイルで散策を楽しんでいただければと思います。村川別荘でも、ぜひご紹介をお願いします。

### 1月の来荘者数

平成27年1月の来荘者数は、165人でした！

平成26年1月 315人

平成25年1月 277人

平成24年1月 0人(工事のため)

1月に入って、雪がちらつき始めました。



突然の大雪になりませんように…。

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は3月1日(日)9時30分から旧村川別荘新館で開催しますが、**シフト確認等が終わりましたら、そのまま歩いて白樺文学館へ移動します。そこで、10月月例会時と同様に白樺文学館の特別企画展の解説を実施する予定です。**

みなさま、よろしくお願ひいたします。( ^\_^ ) /



# 旧村川別荘だより 96

平成27年3月24日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
 歴史文化財担当：須藤、工藤、田中  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子1684番地  
 TEL:04-7185-1583(直通)  
 E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

3月の月例会が開催され、3月分および4月分のシフトが確認されました。変更点などがございましたら、ご連絡いただければと思います。

気づけば3月になりました。2月24日(火)～開始された「ひなのまつり」も無事に終了し、段々と春が近づく予感がする毎日です(ひなのまつりについては後半に詳しく!)



(今年のひなのまつりは 干支・ひつじのお出迎え♪)

## 白樺文学館特別企画展示解説

今月は、3月1日(日)～5月24日(日)まで開催の特別企画展「我孫子・白樺派を継ぐ者—原田京平の生涯—」を、現地白樺文学館で、直接解説を聞きながら見学しました。

### ●原田京平とは？

原田京平(恭平、聚文、和周)は、1895(明治28)年に静岡で生まれました。1913(大正2)年、18歳の時に上京し、洋画家の道へと進みます。画家、歌人としてこの我孫子を描き、我孫子を詠んだ人物です。



我孫子へは、1921(大正10)年10月に新妻睦を連れて、島田久兵衛の別荘へ来たことにはじまります。当時、我孫子に在住していた志賀直哉とも近所であったため、交流も深かったとされています。

1928(昭和3)3月には、7年間居住した我孫子から世田谷に移り、1936(昭和11)年1月に40歳という短い生涯を閉じました。

### ●白樺派と民藝との関わり

原田京平と白樺派、民藝との関わりは志賀直哉との交流に始まります。志賀との交流を通して、柳宗悦と交流があったことを示す写真が残っています。1924(大正13)年京都山科志賀邸の写真では、その交流

を示すように志賀の家族と共に写真に写っています(一番左端が原田京平)。原田京平の長女・麻那は、柳の甥で染織家の柳悦孝に弟子入りしています。



「京都山科の志賀邸にて」  
 (前列左から橋本基、万亀子、留女子。後列左から原田京平、志賀康子、志賀直哉、九里四郎、柳兼子、志賀寿々子、柳宗悦)

### ●原田恭平像について

「原田恭平像」は、佐藤朝山(1888～1963)の若き日の作品です。佐藤が友人への贈り物として作成されたものと推測されます。



(原田恭平像)

### ●歌人、画家として

原田京平は2つの顔を持っていました。歌人として、国文学者であった窪田空穂に師事し、画家として自由画教育などを展開した山本鼎に師事しています。原田は画家というのが本業であったと言えますが、窪田が原田の遺歌集に寄せた文章には、歌人として「原田君の本質をなしてゐたものである」と評価しており、また、同じく遺歌集に寄せた山本の文章には、原田のことを「而して其の成績が人の目につき出したは、所謂彼れの我孫子時代である。」と、評しています。原田が我孫子で読んだ歌は50首を越えており、原田にとって、我孫子が創作活動をする場所として、最適であったと言えるでしょう。



(原田京平のスケッチ類)

### ●我孫子の新たな偉人原田京平

原田にとって、我孫子は、歌人として、画家としての創作地であり、また、2人の娘を育てた新婚生活を営んだ場所でした。長女麻那は柳悦孝に師事したのち、染織家としての道を歩みます。次女の南は、画家として活躍し、京平の妻睦も画家としての素質を

備え、京平の死後、2人の娘を育てあげました。原田家は、まさに芸術一家というにふさわしい一家であったということが言えます。

京平と睦が我孫子の地に暮らし、志賀直哉、若き画家たちとの交流、そして、娘たちへの芸術の継承…。我孫子の白樺派の文化空間という「地」の継承者こそ、原田京平であったといっても過言ではありません。

このように、原田京平は我孫子にとって、誇るべき偉人の一人として、改めて評価されるべき存在と言えるでしょう。

2階の小展示室には、そんな原田京平旧蔵の朝鮮民具、満州絵葉書、そして長女麻那（1922～2006）の染織作品



(原田麻那作「連珠華紋留袖」)

「連珠華紋留袖」などを展示しています。原田一家のことを少しでも知るきっかけになるとと思います。



この機会にぜひ、足をお運びください。よろしくお願いたします！(^\_^)!

### ★「ひなのまつり」報告★

今年は2月24日（火）～3月8日（日）まで「ひなのまつり」が開催されました。

今年は、日本古来の五節句のコーナーを設け、桃の節句はもちろんですが、人日、端午、七夕、重陽の節句と、季節に応じた節句に込められた願いを改めて認識する機会となりました。大変評判がよかったです。（\*^\_^\*）



2月28日（土）に行われた“桜餅実演販売”についても、大変好評のうち終了いたしました。当日は、新館に商品を買求めにいらっしやっただお客様が186名。その日の来荘者数の全体は384名を数えました。今回、あびこ農産物直売所あびこんとの協同イベントは初めてでしたが、充実した一日だったと思います。今回得られたものをさらに磨いて今後のイベントの企画・運営に活かしていきたいと考えております。



今年は昨年以上に熱心なお客様も多く、つるし雛や手縫いのお人形一つ一つに感動され、足を止めてじっくりご鑑賞いただいた時間も多かったと思います。これも、鷺見さんの温もりがこもった演出があったからこそです。



ご協力くださった鷺見さんをはじめ、ガイドのみなさま、スタッフのみなさま本当にありがとうございました。

### 連絡・意見交換など

#### ●庭園だより

・今回はまた違った形式にしてみました。参考にしてみてください。

#### ●旧村川別荘 10周年に関連して

・来年（平成28年）10月18日で旧村川別荘のガイド開始から10年の節目を迎えます。そのため、パンフレットの改訂や村川の文化財としての価値を改めて見直し、様々な場面でPRしていった方がよいのではないだろうか。

⇒このようなご意見を踏まえ、10周年に向け再度、旧村川別荘についての勉強をし直す等ガイドのみなさんと一緒に新たに学んでいきたいと思っております。

### ★内覧会報告★

3月13日（金）に白樺文学館と杉村楚人冠記念館の内覧会を実施いたしました（白樺文学館の内容は月例会と同様の内容です）。今回、ご周知が遅くになつてしまい、申し訳ありませんでした。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました♪



（左：内覧会の様子。写真は杉村邸にて。）

### 2月の来荘者数

平成27年2月の来荘者数は、1,072人でした！

平成26年2月 1,006人

平成25年2月 882人

平成24年2月 0人（工事期間中のため）

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は4月1日（水）9時30分から旧村川別荘新館で開催いたします。（^\_^）/

